

99 駄倉橋石柱

歴史的資産



受賞者：なし
 推薦者：石橋 琉哉 さん

【推薦コメント】

多摩川から水を取り入れ、六郷さくら通りからいちょう通りへと流れ、灌漑用水として活用された。石柱は生活にとって大切な用水がそこにあったことを偲ぶモニュメントになっている。

【講評】

駄倉橋石柱は、かつて六郷用水に架けられていた田中橋、駄倉橋（眼鏡橋）、北谷橋、岩戸橋、一の橋、二の橋などの橋のうち、駄倉橋の跡地を示すものです。六郷用水は、徳川家康の命により慶長2年（1597年）から慶長16年（1613年）にかけて小泉次大夫吉次によって作られた灌漑水路です。この用水は、多摩川の水を五本松の上流で取り入れ、市役所の裏で野川と合流させて、世田谷区を経て、大田区に至っています。全長約23mに及び、市内でも3つの堀（猪方用水、内北谷用水、岩戸用水）に水が分けられ、和泉村、猪方村、岩戸村などの水田を長い間うるおしました。

昔から多摩川に親しみ、多摩川の水資源とともに生きてきた歴史がわかる遺構として、これからの水と緑のまちづくりを進めていくうえで、多摩川を保全、活用する気運が高まることを期待して、高く評価し選定しました。